



信玄全集

十六

末

ケ 5
68
37





信玄全集末書 上卷之十六

共三十一

- 一 軍配固扇他指四ヶ条の事
- 二 采牌可他指十二ヶ条の事
- 三 鞆他指八ヶ条の事
- 四 扇子指三ヶ条の事
- 五 巾着指三ヶ条の事
- 六 旗指三ヶ条の事
- 七 幕可他指十九ヶ条の事
- 八 内幕他指二ヶ条の事
- 九 田町連幕指三ヶ条の事

十 慢幕は立敷負作法のもの

十一 ばきかひの事

十二 拵指の事

十三 かくのそまうりて

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

信玄全集末書卷之十六

共六上

○一 軍配圓扇作り松四ヶ条作り

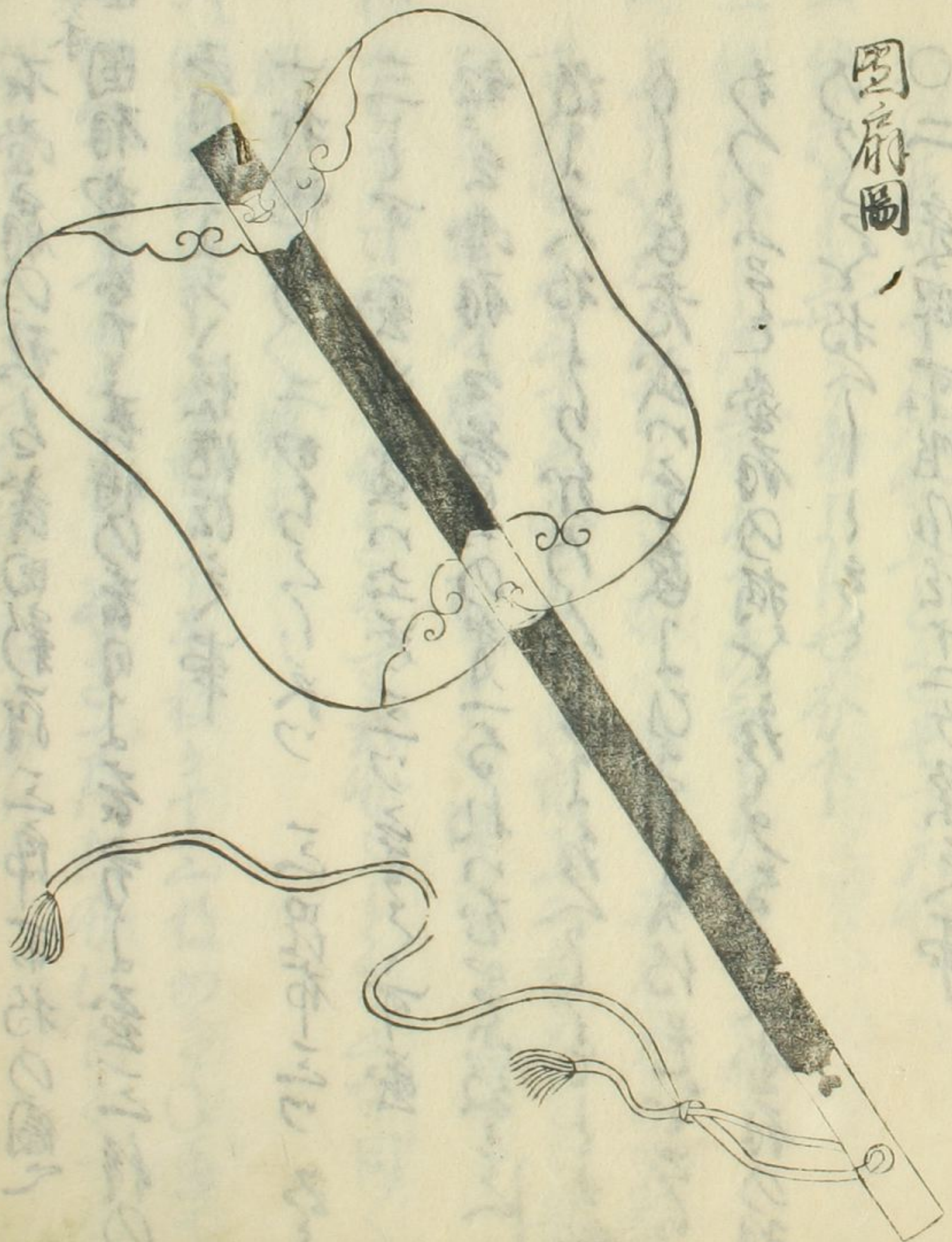
一 圓の形は作り相あり望八寸横入り廣さ一丁一
九寸中一とく七寸三分下一とく七寸二分

二 柄と勝軍才をらのかれを周をわら柄の取
骨の上へ三分余作りをそ尺寸五分但是を
高位貴官の人取柄の圓あり平人の柄を
さ八寸五分作り一丁一丁又分作り一丁一
丁一丁の作り作り作り作り作り作り作り
作り

三 圓と作り作り作り作り作り作り作り作り

三つくおのすゑ決りありて
 之圍の中より字ありと畢竟暑氣減らるる
 なるれば其の圍より風面より掃きぬらう
 法率より下をとりあへ可用也

團扇圖



右堂扇の形と或田新解三節可物の圖
四圍形ありて其將の吉日よき方よき三種の

右組より、銃法之事

- 一 打炮又ツ
- 二 四つくり又ツ
- 三 毘布三ツみ
- 三 一可重湯釜の土釜三ツ重く可重
- 和云 堂解と其具の事一るれいむき不致とに
- 故一 大物よりかり人より多くことと云
- り一 家老或の事一よひさう或は是と云
- わつしよそを堂解の柄と云るるれ堂解の柄
- のうとと柄一と云

○二 采牌可作法十二ヶ條之事

一 柄の長さ大八分ふとふを寸五分

二 緒とや一完う角より七分下

三 結と紙しけ完右下の角より二寸中

四 下下とらんらうらうの根子よてもらんを寸五分え二寸六分下下の完よ二寸五分とく丸わりまると勝軍まよとく他とく

五 下下とらんらうらうの根子よてもらんを寸五分ふとふ二寸四寸同く勝軍まよとく他とく

六 紙殺の事 九枚十を枚十三枚ありて垂て切へしとふとふ五分と二尺五分は内を寸五分のうとと柄と云るれ寸五分

異

秋云是らつらうとよは付らふの紙敷をりあは
かそくこゆうよは是とそひかり店獲は不置人
の好まうらう人へ村云は説わく用由へ
と云ふのことくすあり

七 寄付は紙を紫草うわのうらわのひのゆと
かまうらうもくろくわくさきす二分は
して中あて繕く

八 うれぬきの紙を三丈おす二分ありとらり
物と紙あり

九 ひとひやうの桶より三寸二分あきくむと
紙のわらうらみく二分をす二分あり

私云はれぬきの紙くくくとあぐくして
と紙はまうらうの糸よむとひ付てあ
とへはらうとわく寄牌紙をさうありと
も地へたるとゆうとありとありと

十 寄牌の色は赤白二色あり但赤寄牌は白大
おの介は紙不可お平くと白寄牌紙可お
とらりなり

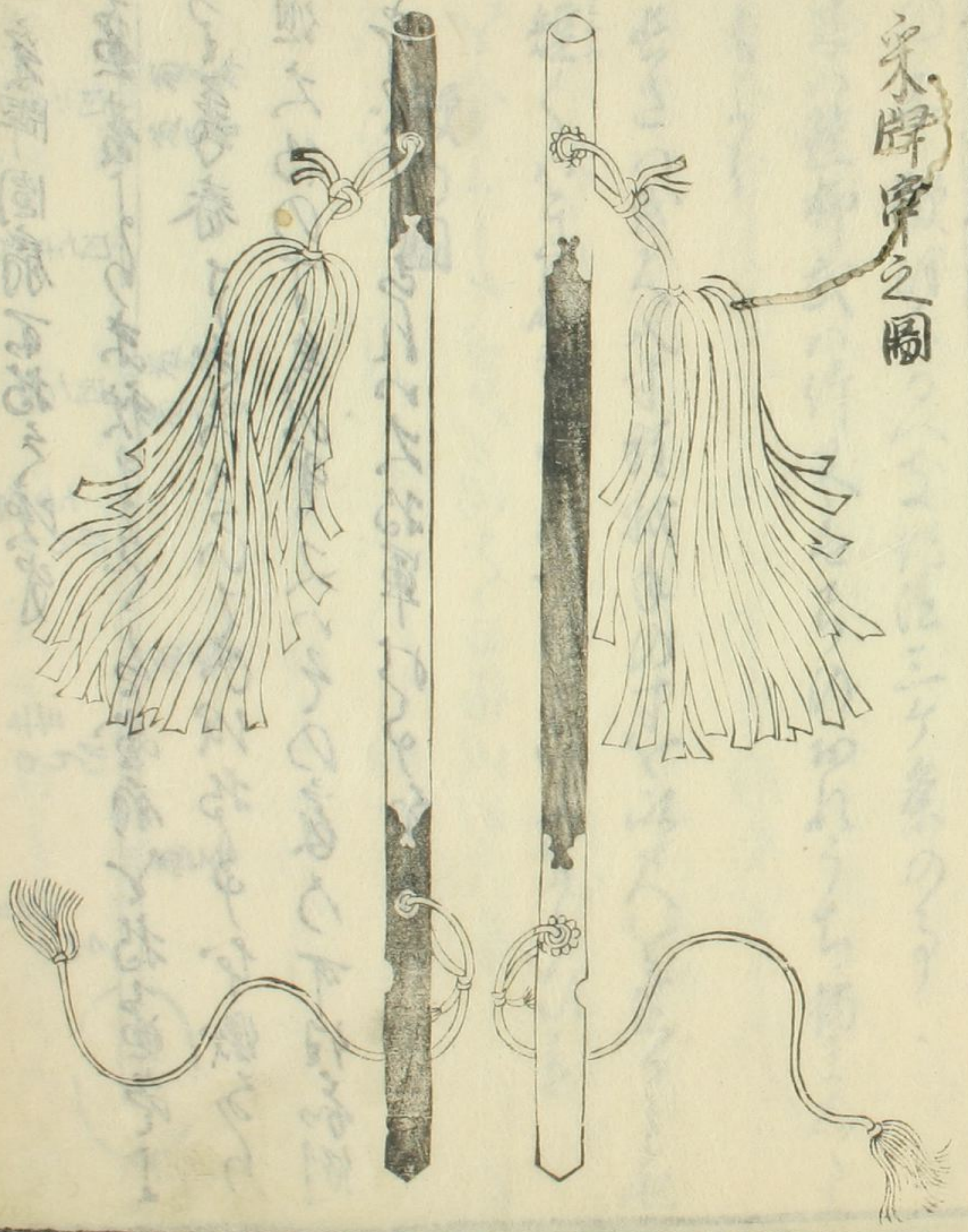
十一 寄牌の色は白といはくくと黒なり赤寄牌
と赤地のといはくくと紙用をなり
村云といはくくと紙用をなりこの
と赤といはくくと赤地の赤と白桶といはく

とまらざるなり

異本
私に近代と宋牌と金銀の紙あるひいそくま
或の赤紙を用る人多く上古の紙を暗像に
知へ

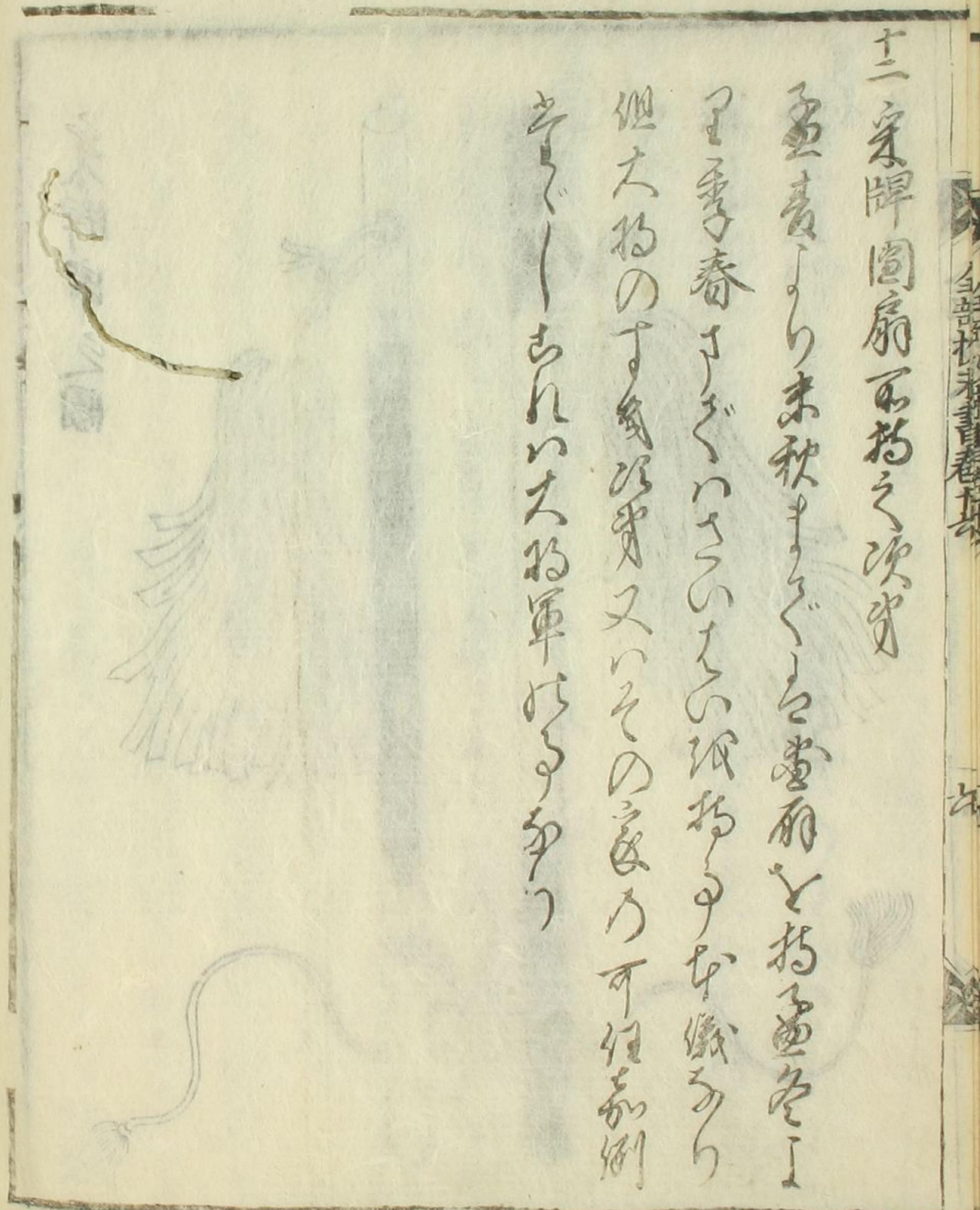
或人云其國よてもくはちやくゆと行ふが紙
とらりちるまどまにらよての紙よて切とな
とよは侍あつなき紙あり

宋牌字之圖



三采牌圓扇所持之次第

夏末秋初とて扇と持て
夏末秋初とて扇と持て
夏末秋初とて扇と持て
夏末秋初とて扇と持て
夏末秋初とて扇と持て
夏末秋初とて扇と持て
夏末秋初とて扇と持て
夏末秋初とて扇と持て
夏末秋初とて扇と持て
夏末秋初とて扇と持て

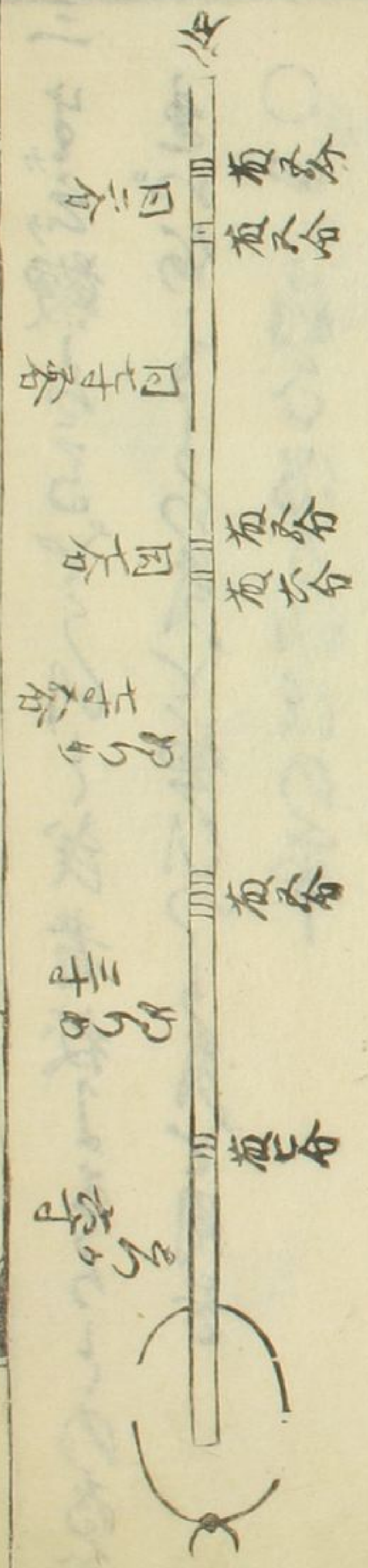


○三采綴りつゝへて此法三ヶ条の事

一 月の縫柳或は竹又とらりのゆれうち柄よきもの
もろく

二 長さいか八寸程我々の寸と以てんと定むると也
短くいふればつげとらよきもの

綴り圖

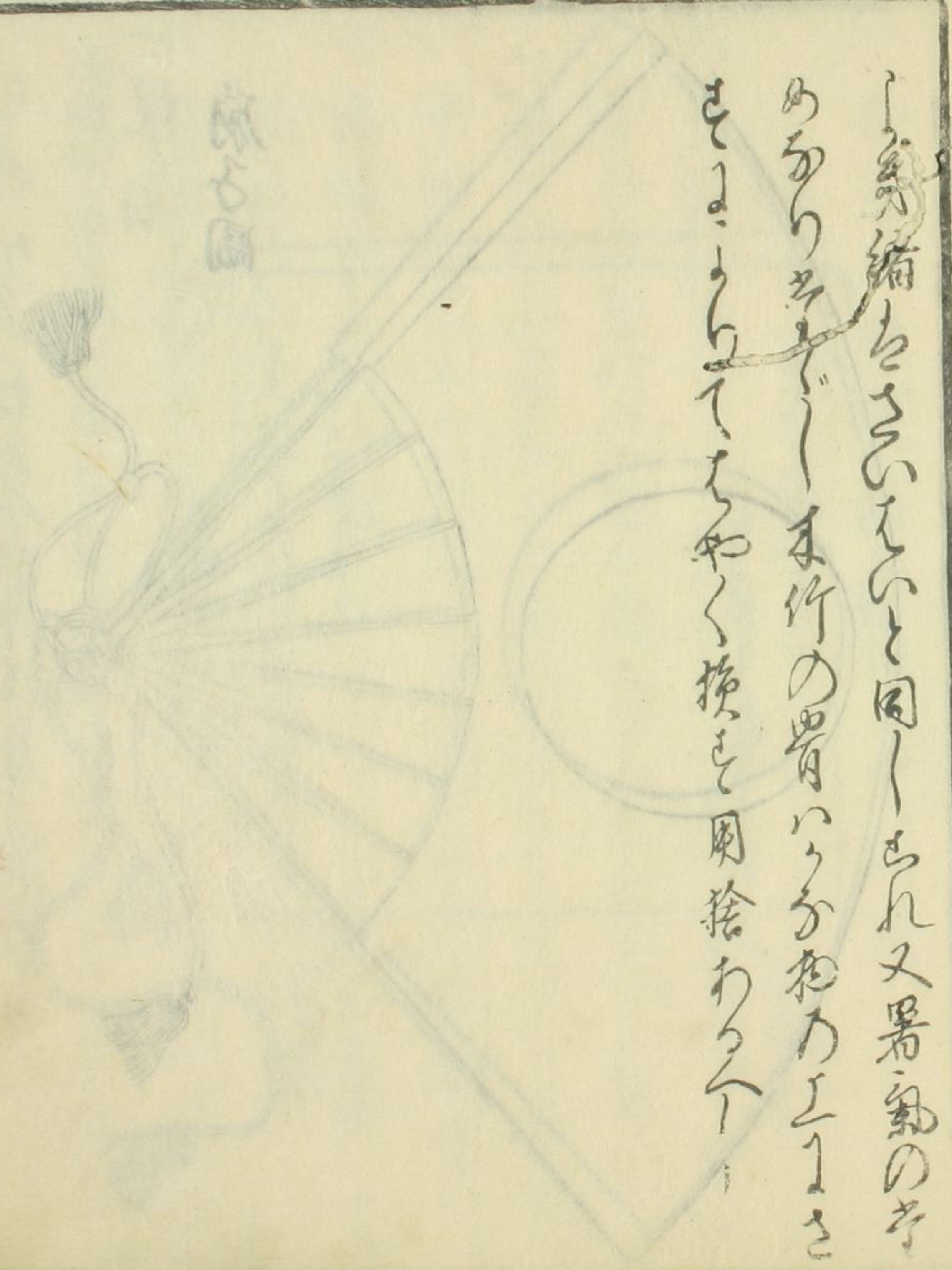


三 生かゝるゝと云ふは、
さび何ものゝ氣と云ひつゝ、
氣を用子

○四 扇子作り法の本

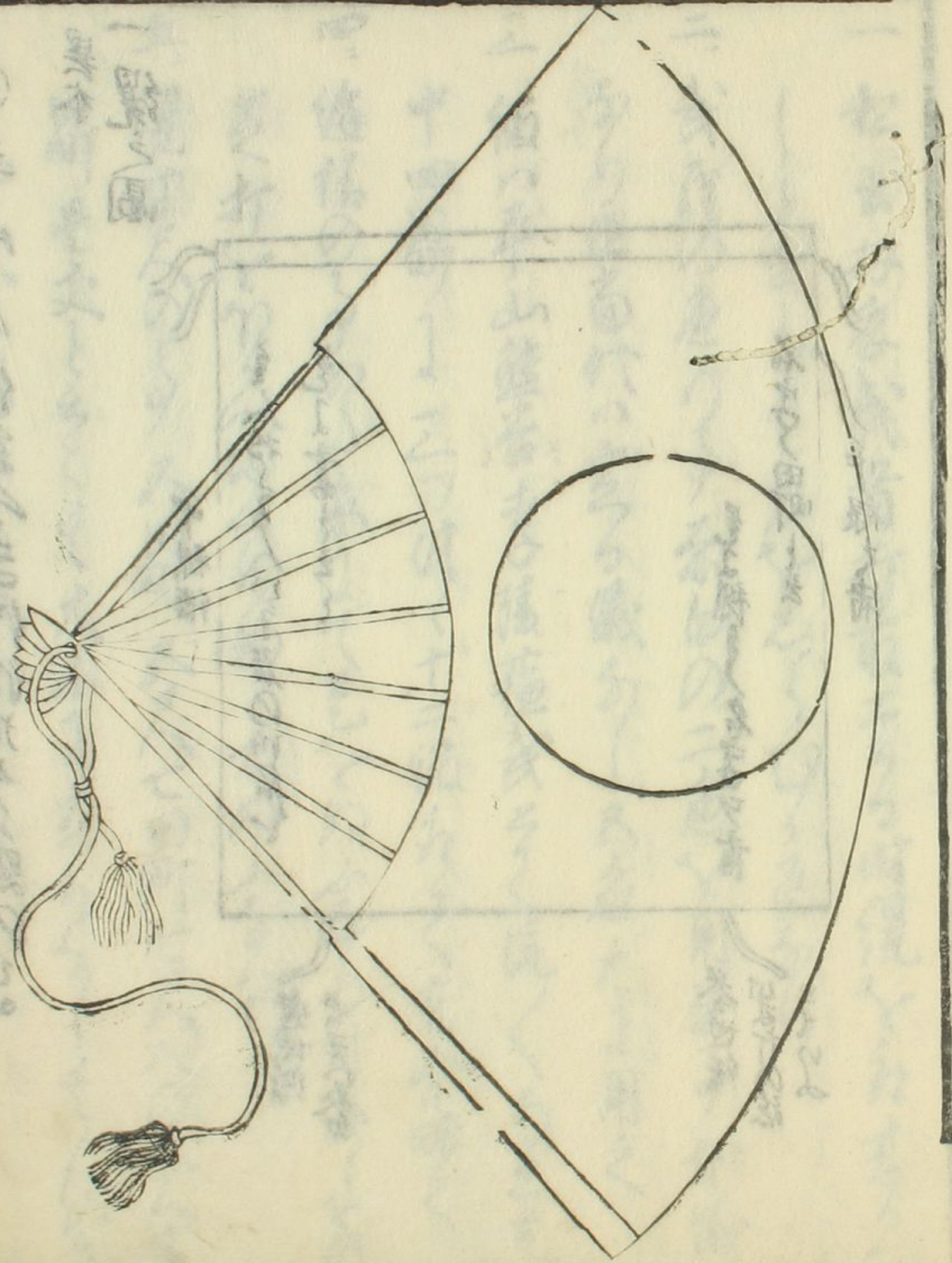
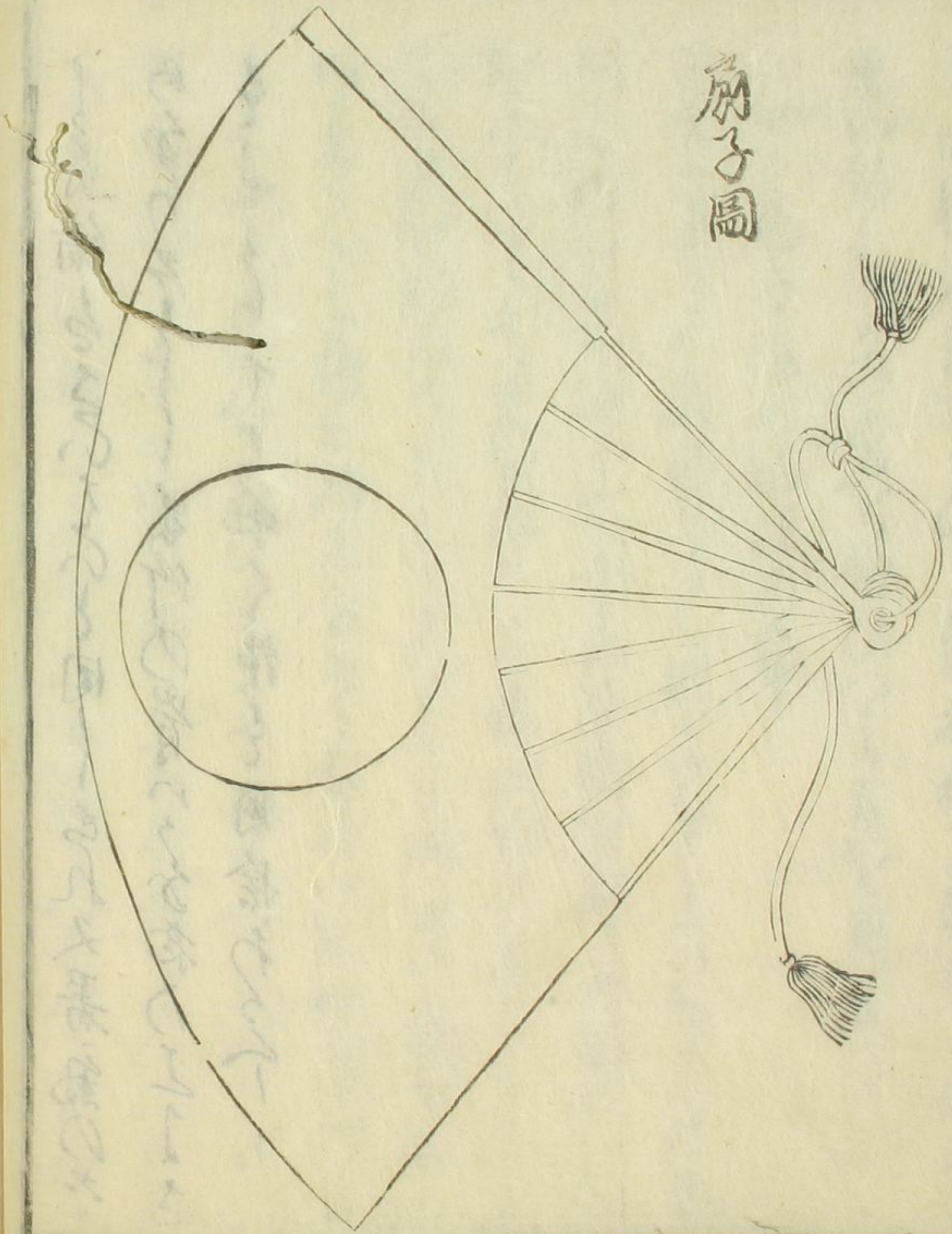
一寸法は、
紙を地と兼ありて、
と合ふは、
てあれど、
ゆきくも、
しと中、
二村、
ゆきくも、

しと中、
ゆきくも、
ゆきくも、
ゆきくも、



扇の圖

扇子圖

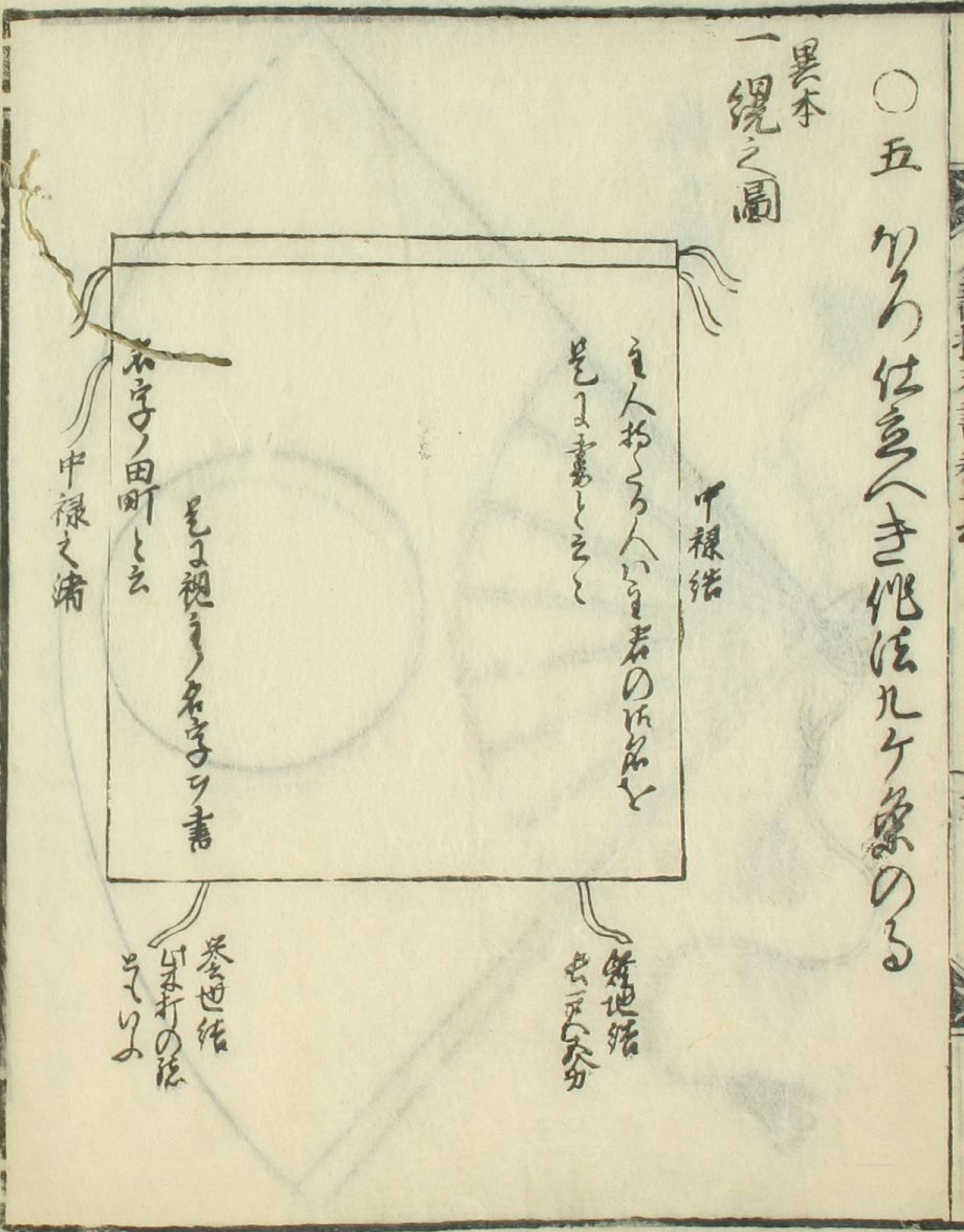


Handwritten text in Chinese characters, including the characters '扇子圖' (Fan Diagram) and other descriptive notes.

Handwritten text in Chinese characters, likely a title or page number, located on the right edge of the right page.

○五 川の仕立へき他法九ヶ條のる

異本
一 纒之圖



一 松云母家氏者打取する所時纒と云ふ事あり
一と云ふ事をも名と云ふむが為あり

二 武隆の色りる赤白の二色と用ふるが儀
あり但當代の定る儀あり又色を二用之

三 緞ハ平山熊谷孝子陸菴氏と云流くおき
中四割一と云つけ十二緞あるを余略す

四 緞格のちかき糸よて是とゆふあり計毎
芝打とゆふゆりのゆてゆふる

五 纒す人のち又四割又尺七田所七尺八の八尺十
四割を丈と云くそ大小と定りちるそ人の
ちやちのゆりのゆよる

^{異本}六 母衣乃文字のり平者橘の四姓よりり
切らりあるべしと云

武羅 源家書之 亦武羅と書

神名 平家書之 錦 友氏書之

母衣 橘氏書之

鏡作如身より時鏡の三輪と云り身禪者
一切ありと云

^{異本}七 和云鏡の六具の身一あり儀之上古のたね
と云る也名を武士母衣と云る也
つるもろし母衣と作り母衣と云る也
ゆぐのろしひもろと云る也

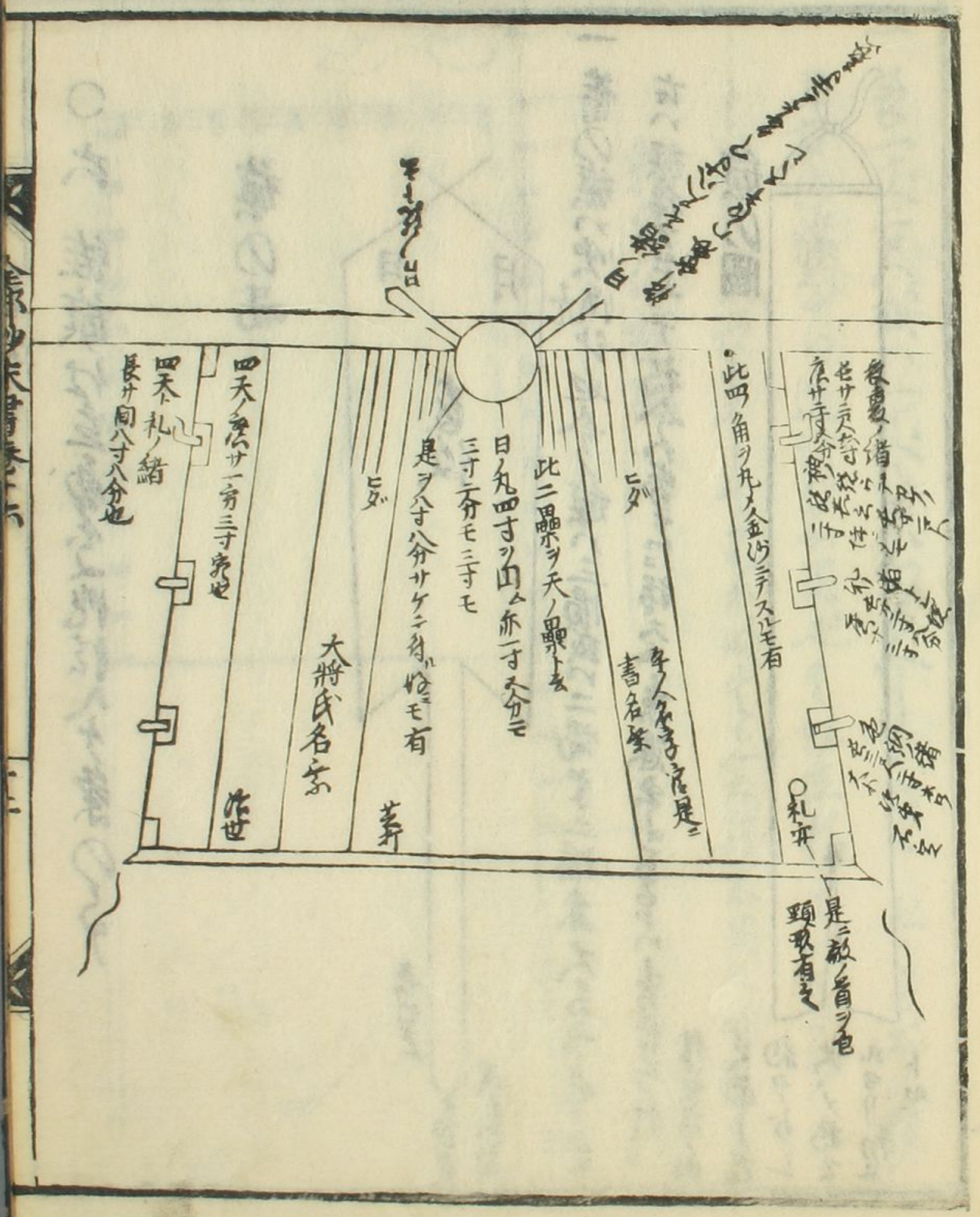
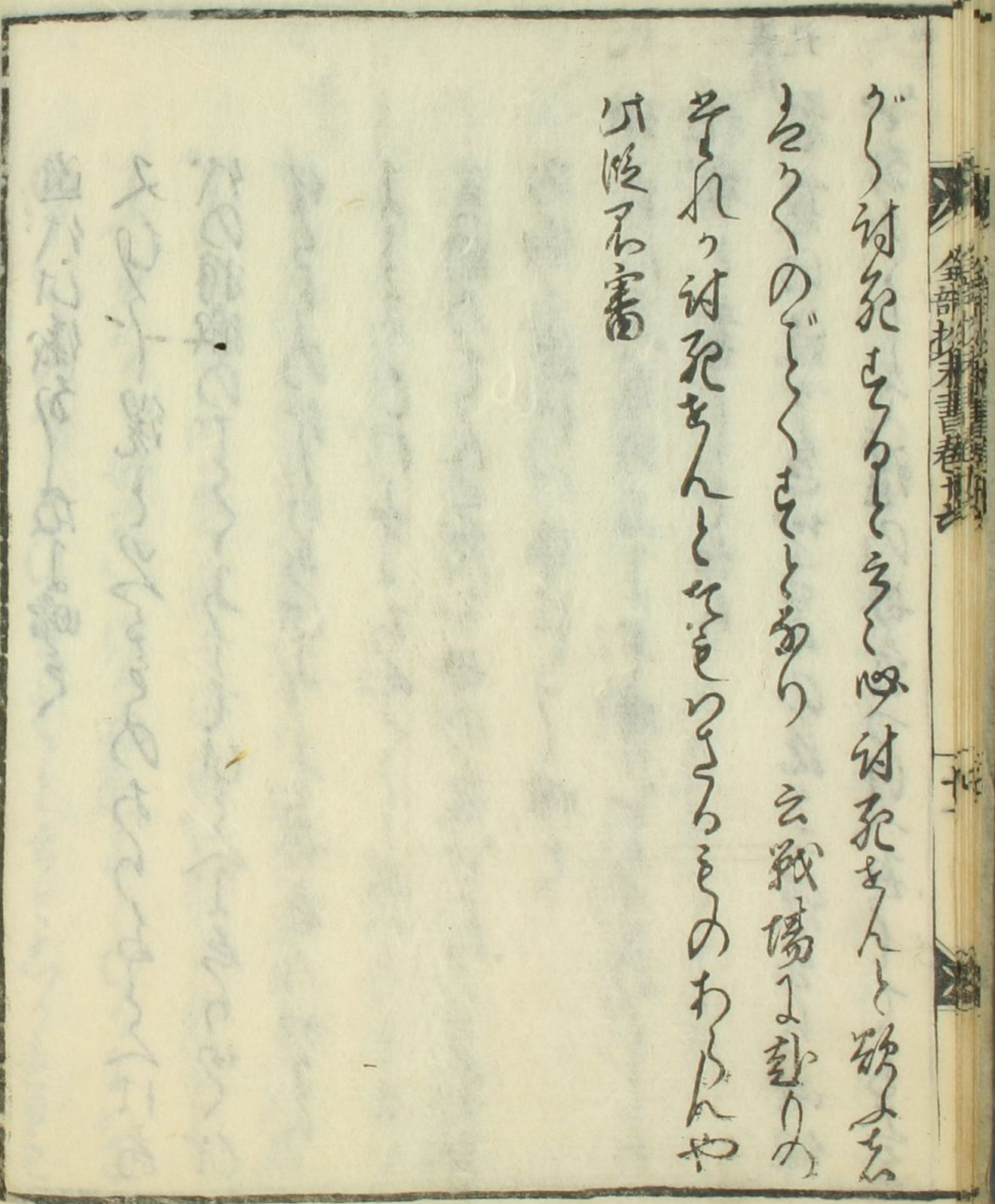
逆代は儀ありと略之

又ひて鏡と云るものあり也
代の形儀のごとくしてひき合はり
付らぬのなりありとて母衣の
よよりひれよよちやくと略り
美園乃ちんくわいが母の衣と云る
の儀逆代は作法ありと略之

八 神宮后文曹の工よ半臂と云るなり
袍衣と書しとあり

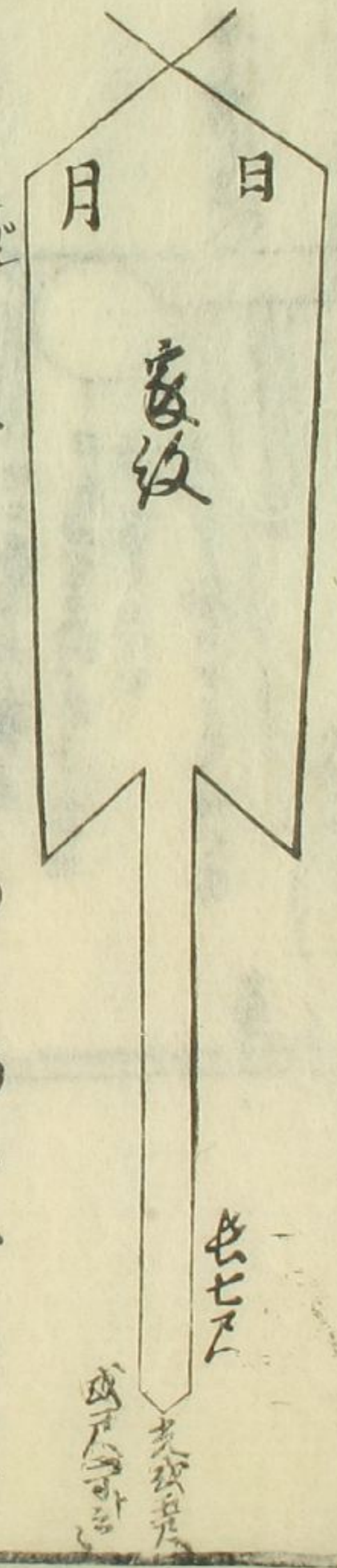
^{異本}九 衣裏の結うさ切さあめ結う二脱あり此細
と云るして襤の母衣つけへありて

かゝ討死をりしとき必討死をんと欲す
るくのでしとあり 云戰場に討りの
それ討死をんとせりしものわらんや
討死をり



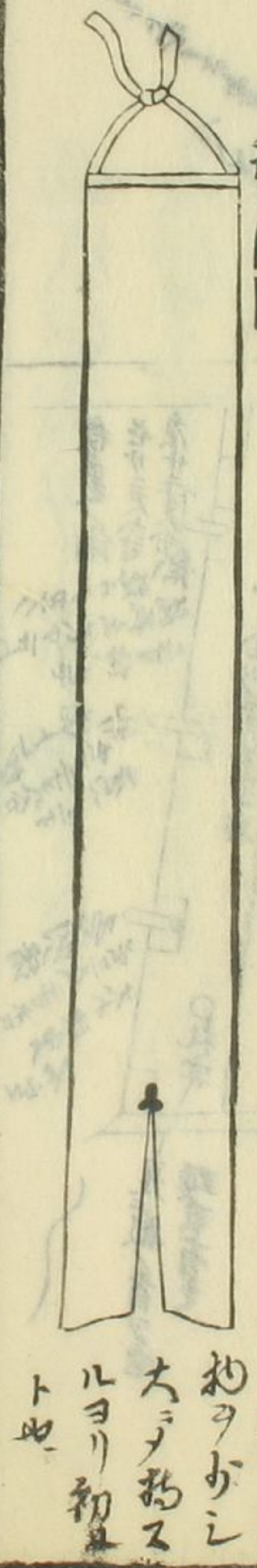
○六 旌旗は立角を文化法八ヶ条の事

旌の形



一 昔の旗は吹流^か流^り也今ノ旗ハ三幅或ハ二幅オ三幅オ大なる者ハホリ
古ハ旗指^さる上ニテ物今ハホリニ指スル糸懸云小なる者ハ秀者云ノ付ニ

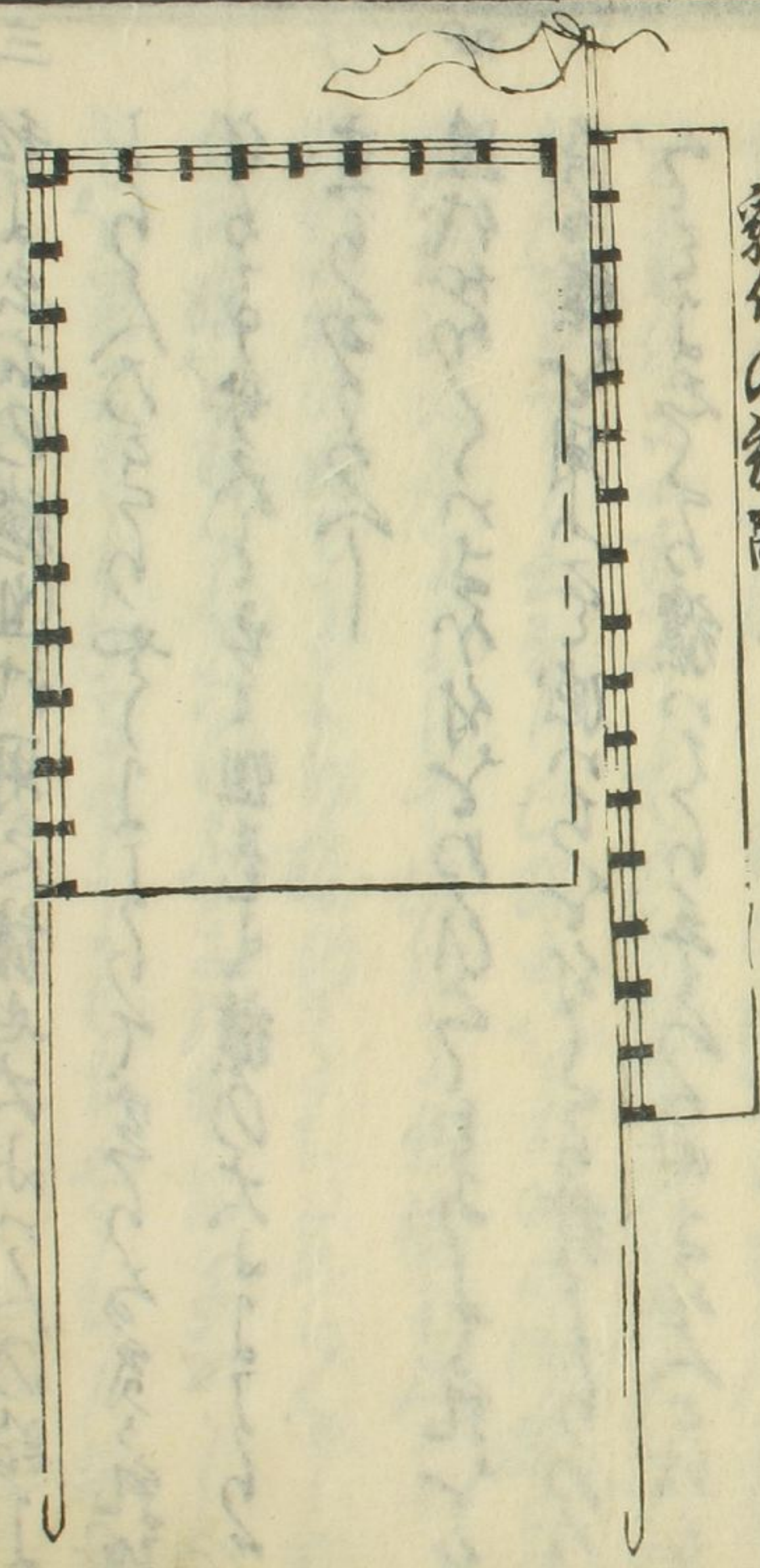
旗の圖



倍長云ノ内
之面ノ指
物ヲガシ
大ニテ物ニ
ルヨリ初
ト也

二 長一丈二尺或ハ一丈八尺あり个ノとき 和ノ云右ノ旗ハ
上右ノ旗ナリ 逆代ハ不用也 是ハ立角ノ旗ニ 旗ノ長クモ
とノオモイ逆多クハホリニ上右代不用之ハ 四寸

乳付の旗圖



三 松よ云右の旗は代用之旗也大ぬ人の好し
しり人の好しやうしよりして空りるる乳
けりる母又とそと但是も旗の大ぬより
空りあうか

四 旗代あつてはふれとわひらきもあて乳と
ふる旗と用ふをぬいちとけしる旗しりぬひ
くこよ志ころ旗いしりそつら時さかんと
時て申のどろくが森林山原ちとぬぬし
らすしそり申しよりけし物くわ
をり可哉事

五 旗格のむらりかへばさすおぬととも

村むりのすへゆらりかして旗ありき具いのま
もくはせし

六 旗の教え事なり一冊しりてその書は旗七
けり十なり吹海しよ右の紋とけあひの文字
と書付又四すあて大なる旗二本青と白
とひる布と云ありは旗たと大おの旗と云
人教の大おしよりしてけしは熱旗ま

七 旗代おの好しよより旗のくそら空りる乳
付の旗と用らよあひらぬぬぬあ
とと用又まひる布しちわうらんぬ
ちらるぬらぬわらぬ空らん

海軍の事... 八旗と用子... 旗の紋... 乃他法...
海軍の事... 八旗と用子... 旗の紋... 乃他法...
海軍の事... 八旗と用子... 旗の紋... 乃他法...

くく... 乃他法... 旗の紋... 乃他法...
くく... 乃他法... 旗の紋... 乃他法...

○七幕... 幕の習... 二つ...
○七幕... 幕の習... 二つ...

とありて三ツのよりの三縷一繩なるひては繩
玄四ニワリテニラ羊繩ニ
 一よとへー 一ウハ乳ニスヘニ 是天地人の三カカ
 かしらあり故しゆらこまき青も世白も天の
 地青の人のけり相影り天瑞の中よして一の繩を
 尺一は定自余の七カをば切て乳よとへー
 二幕の長さありする三世の幕の傳 幕の七カ
 の大中ふわりの中幕中幕小幕あり是七
 歩六歩五歩四歩三歩と名付て三世の幕とか
 つけて三世のまくと云らる大幕と七カは四
 丈二尺中の三丈六尺小幕の三丈ありをその
 物いよしりては立る

二の繩の長さあり 五歩りゆくと四丈八尺
 六歩りゆくと四丈八尺七歩りと六丈三
 尺なり是より七カをばややく云るよー
 一三縷一繩なるうなり組むゆのまくと
 よいゆきこの繩とけりるもすまきこの繩と
 を幕のよとくして余の二方三尺つとる
 よも六尺とすよとへー
 四幕乳の敷ける九七丈八二十六分あり
 乳よ云すくの乳敷のゆか七是が後ありと
 ちへも七歩六歩の幕の七カをば長あつとあり七
 宿よ九とくをばへて六尺とへー

五乳のせいのり言流の廣さ八分長さ四寸
式分又寸二分あり物のせいで四寸廣さ一寸五分
ありけり

生云云さ四寸以内一寸式分は田圃付所より折
返してのものありあ方合て八寸あり廣さ
六分乳の付やういふ繩のぬ指とく中と二ふ
よ二つ乳^チ双べてけり

六軍艦のねりも日月貪巨録文簾武破
そく九つあらへ一日月の物だつ天の習と次
幅のりあつる各二尺二寸を次二つ幕
よ四つ合て九つあり勝れくと芝打のりよいけり

さうらの物だんの廣さ七寸あ方たよ思はれそく
菊ぞらとつげりもろ八寸二分六寸三分一
もさうら菊ぞらと寸半サ三寸あり皮はさう
ふけう赤皮も物だんとつげりよ四つあつる
一尺二寸つをらよ文様物だんとあつる
次のころよ二つ巨簾破を次二つ貪式物
だあり

七幕仕立糸のり 陸陽の糸よ天のり
幅のりよ二つり糸色の糸よて縫るな較也
又糸よ糸よてもはさるありを糸よて縫へ
八幕過格のり 針入とよをあつる

け印へかゝらぬて終へし折返ひするれ布を
くさぬへまわりの曹とわらわらやういふをて二匹
の陰陽の糸を懸へぬひをあらわひさめつりく
あしあそく 或人の云布と右のくくくをひく
一ととりつても懸へし但陰幕と云天の幅と二幅の
右と二匹伊りぬかへしと

一乳の付やうのもの 付足と七よ可付あり是と
うとやうもろ也又☒ぬひもはら針張まらよも裏
に番へさうぬすへし一敷の端と中と二匹糸付ら
る田ぬひツ糸付り乳の☒ぬひあり叶九さの
かやうの付格不可用

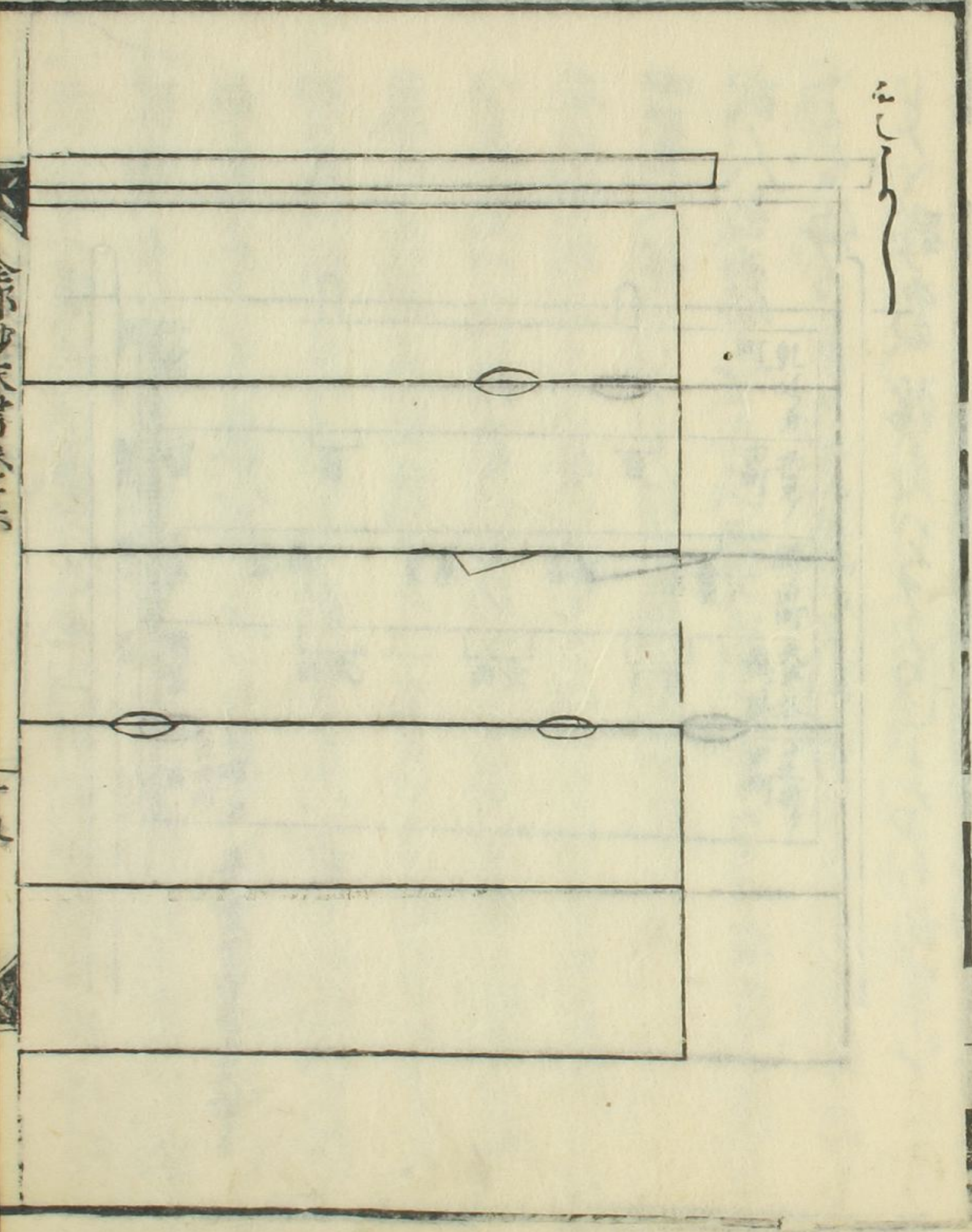
九級とあそへさるす 婦子二男をよるあわの端
子の級と天の貫へけりてくへし二男の天の
と糸し芝打すてしよ書屋しまうりそく
天のく芝打あのと糸中三のようくく敷の二
み百そ人の好むよしうりなりあり 幕よ級
あそひか役する一が義の糸文の塊あり物れど
も云方の幕むこるろぬ故よとのく級とあ
と也故よか役するしめ格よも可付

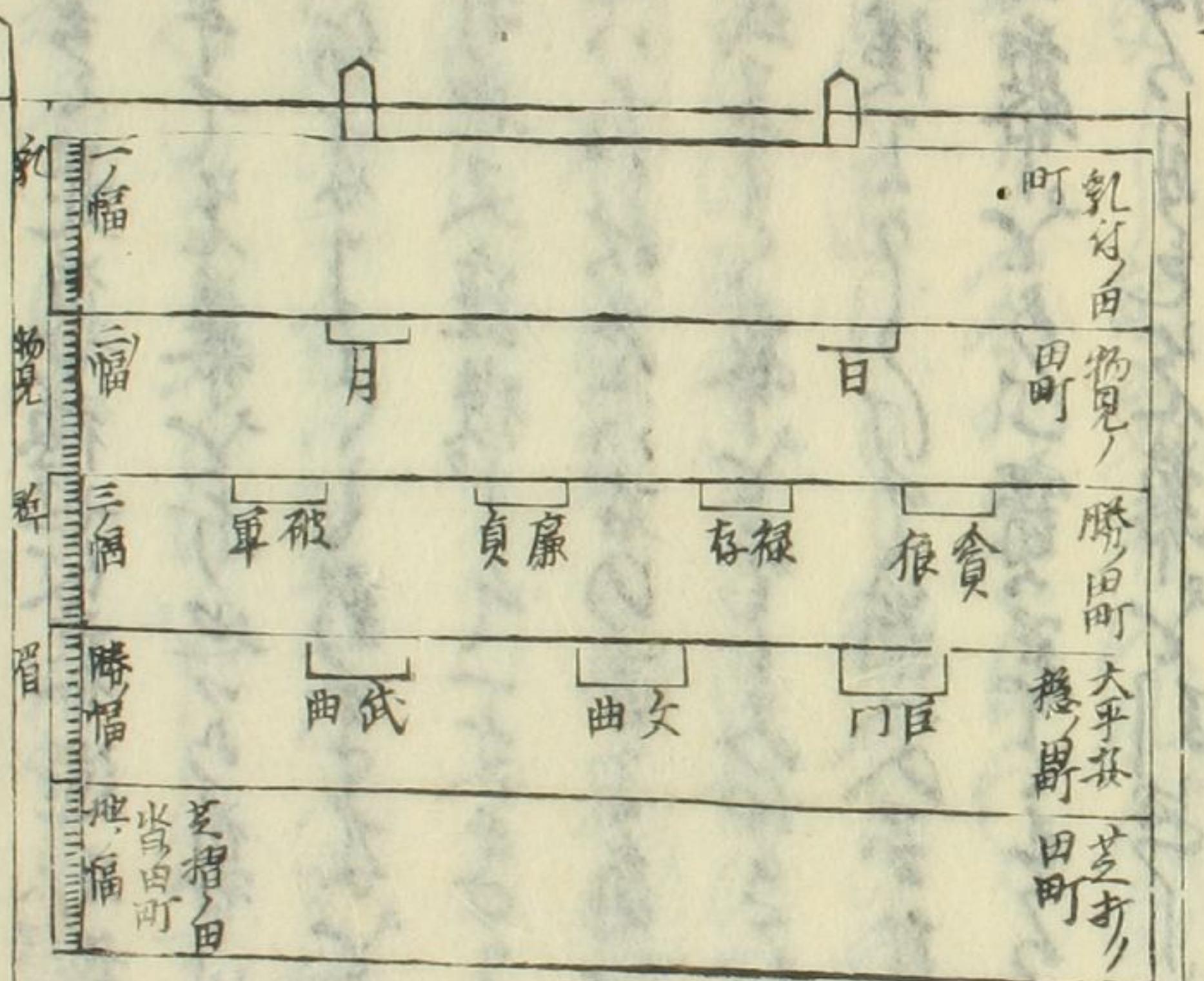
十尺説
幕布細るすか役よの十二の糸又十の尺の糸と
わらへてさうす布と細あり糸も同糸あり
ぬし 幕よあぬのす一色よ不定白絹白

布白縫糸よてもらうすねとあり但を林の
 例るゝ大取白布と用ふなり

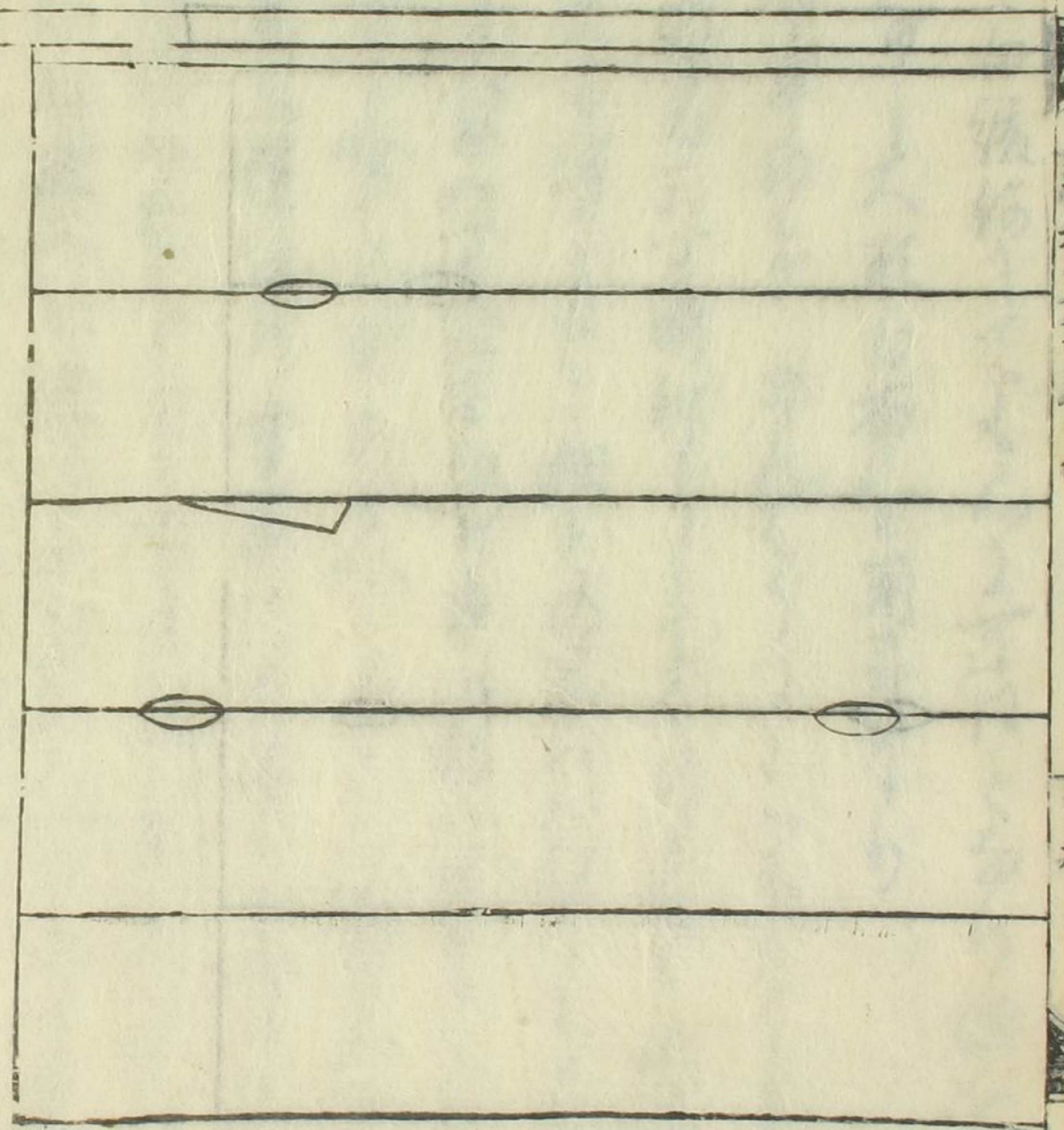
土幕申のり どんとううーらふしーよらぬ
 木のら三寸折釘うーまくのすりー地の上下の
 ころ六寸はくまと摺とのらぬのそーよ寄
 地よ入の二尺二寸あり申の敷の行まうく小四寸
 一摺よ合て八寸ありーまうく此摺又ツ申四
 四並又横あり方角の二寸はくよつのはは前
 一けつらどんとうぬうーまうく雲と引さうら
 ぶらり地入と鉄ーまうくらり用あり幕く
 こまうくはくーまうくありまうくは行

にしー





軍之度其打筆上芝打

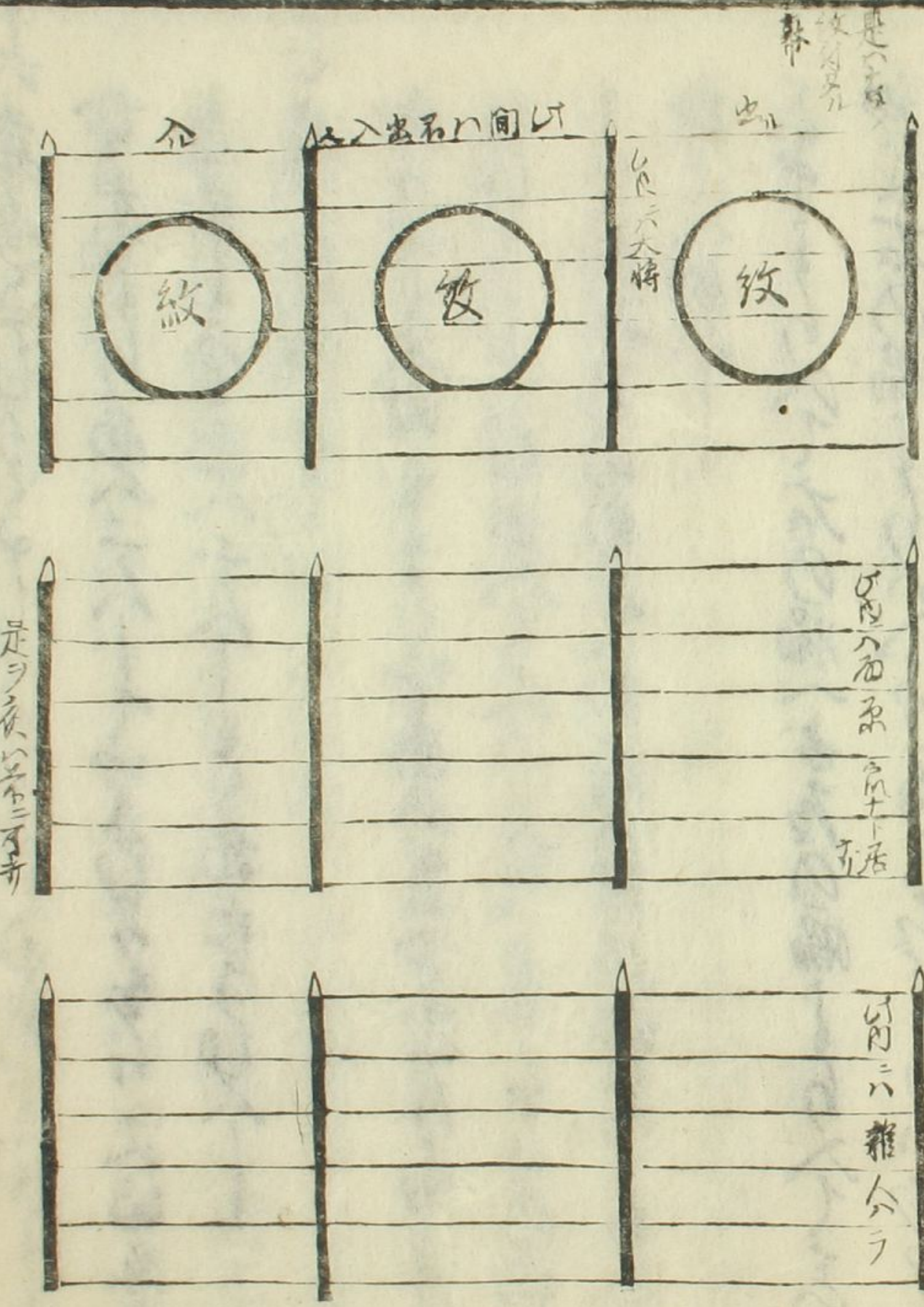


士之幕ハ軍旅ノ寶也也廻計於帷幄中史勝於千
 里外トモ是幕徳也故幕造時撰吉日良辰幕
 ぬすまずて先幕と打也その幕はくく一をく
 御床の何よりくも彫りまよと四角丸八寸たて
 幕と打也又庭後しく一文字子一打りまよと
 五文交いた杖を右のまよと角とあわせて打
 右の儀式まず幕とまよみかまじりまよを縦と以
 四疊又横よりくくして箱へいあなり
 或人之幕まよりい寶也とまよるまよ古昔の儀
 ともゆる月色と先幕と打也くくつらと今のまよ
 とく寝安政改むあるまよとまよの相軍とまよ

とも幕のくくくくまよと矢一ツ村邊ありと
 肩とまよく敵方方へ乱人毎い火を放ち
 くくまよく今今がゆくとくくく火砲軍
 くく日と送らりり親ふとくくくを町成を
 二三十人の致命とも同様のやうまよい心志の
 目くらみなり敵軍へく死人も矢由命くくま
 一とあり
 十二幕の寸方の二尺二寸八寸横に尺八寸守りさ
 いまよとくくくくつらとくくくく可代とまよ
 高幕打やりの事 何方くくくもそ幕のた
 の方くくくくくくくくくくくくくくくくく
 一とあり

二むりの幕くく 杖巻の右の二むりの中く
 くく 角をいしくさくふりありあいのふいた
 右のくくの合せぬ右巻の合してあてんわりのか
 つまひ縄打初め陽の角の打初めと陰の角の
 むり角のく右と左のむじとひよとあはちへた
 を男むじとひよとあはちへたるあり
 常のまくく二文字よとくくして合めを
 巻の常とわらむくく杖よとあてんと紐その
 勝よとくくへ
 十五幕くくく 打初めく 杖打初めくくへ

三巻幕打初



是の幕

はたの巻

はたの巻

はたの巻

十六幕ついでに

かまらり面二人へついでにむらり又海流の時
をまらりと面二人へついでにむらり

十七幕お入のり

お入の時も入時ままくと面のお入すついでにむらり
るびらして相お入とて一筋の書と今日の物か
ついでに又月の物かへお入ついでに月の物かへお入
物かへお入

お中よりついでに右の脇へお入の脇よりついでに
お入右の脇よりついでにお入ついでに
ついでにそのお入の時のお入ついでに

十八幕の名取の事

お入ついでに名取の事ついでに名取の事
の次はついでについでについでに
ついでについでについでについでに
ついでについでについでについでに
ついでについでについでについでに
ついでについでについでについでに
ついでについでについでについでに
ついでについでについでについでに
ついでについでについでについでに

尺牘遊山の時海をくるとふ

五乳幕お入の時ち物り事

貴人言位り人志由はちの時右のよとて
まくとらげて内とうひてはよ可入と女性内よ
五時ちまくとらげると付るまうらう進飛取の
てまくとわひて入あなり

○八内幕物りやう二ヶ條のもの

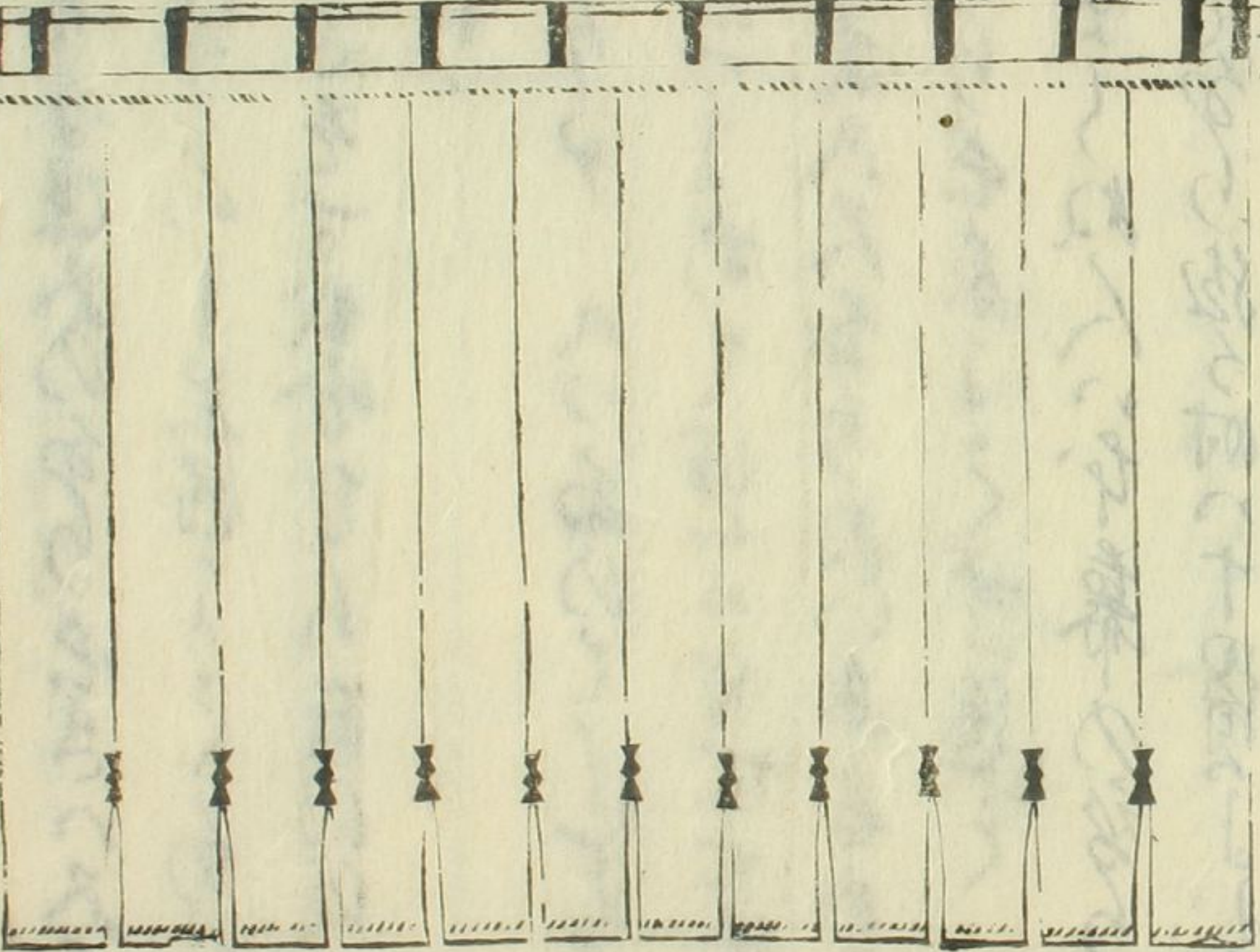
か説のらんのおんこと用は事か儀のり結光
代り金紙純子結ありと用は略儀あり
一の板は左の横はつてはよは左の紋と付らあり
乃下のまは思ひ十二合て十三ありよのまを

縮のちうよとらへ

一乳りや 四角の縮と同縮と同より深は
十六寸へ

二寸そののまされや 又八二寸あり菊さしと
あまぬいさうへ六寸へ一縮糸と糸糸あま
らに糸糸さうやうは横りてぬへへ糸ち
糸るら但陰陽の糸あうへ一菊さしの皮の
あいはと一寸五分一初なりあり

三

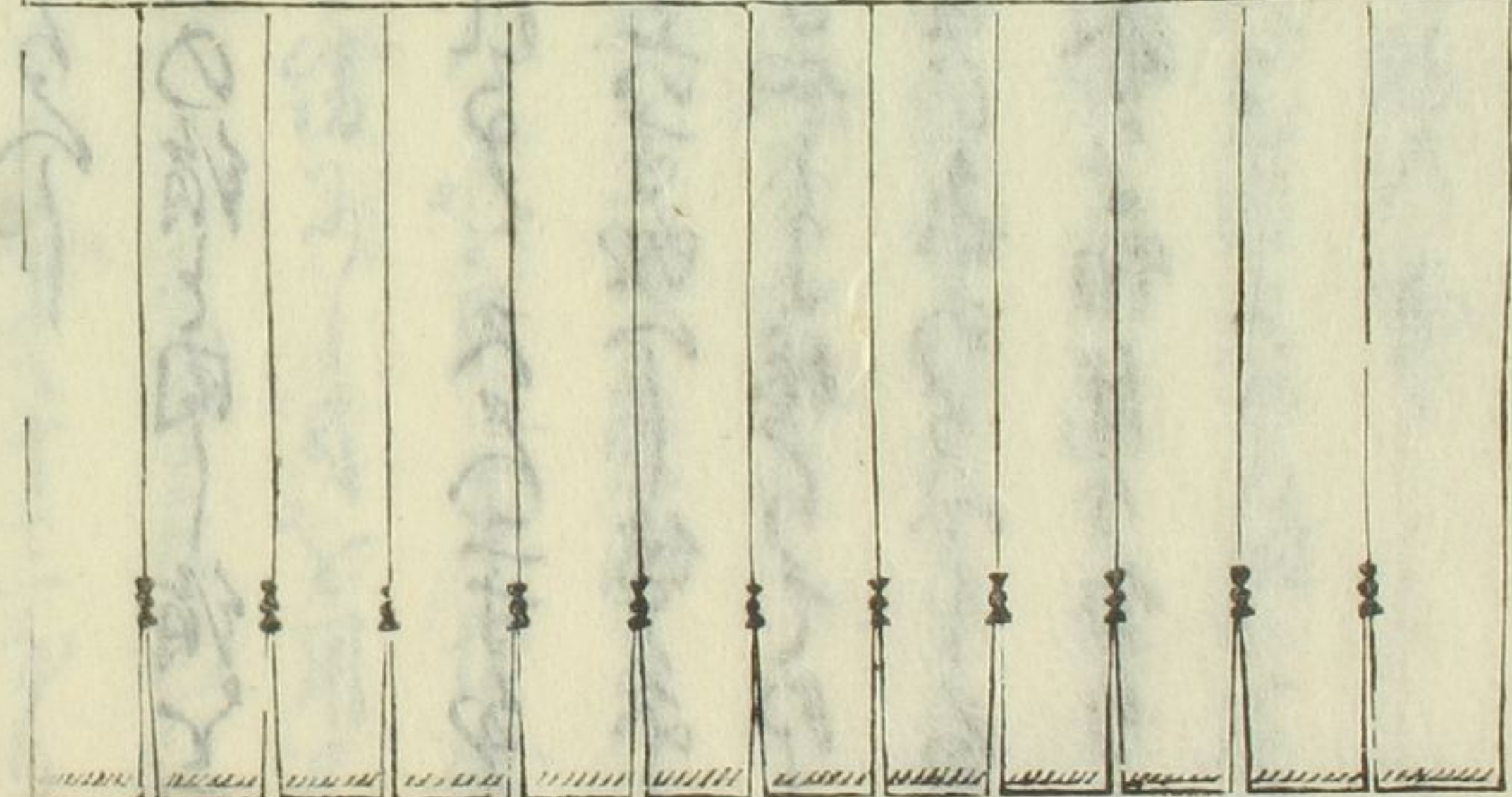


三

三

三

紋。紋 紋 紋 紋



内幕作様之事

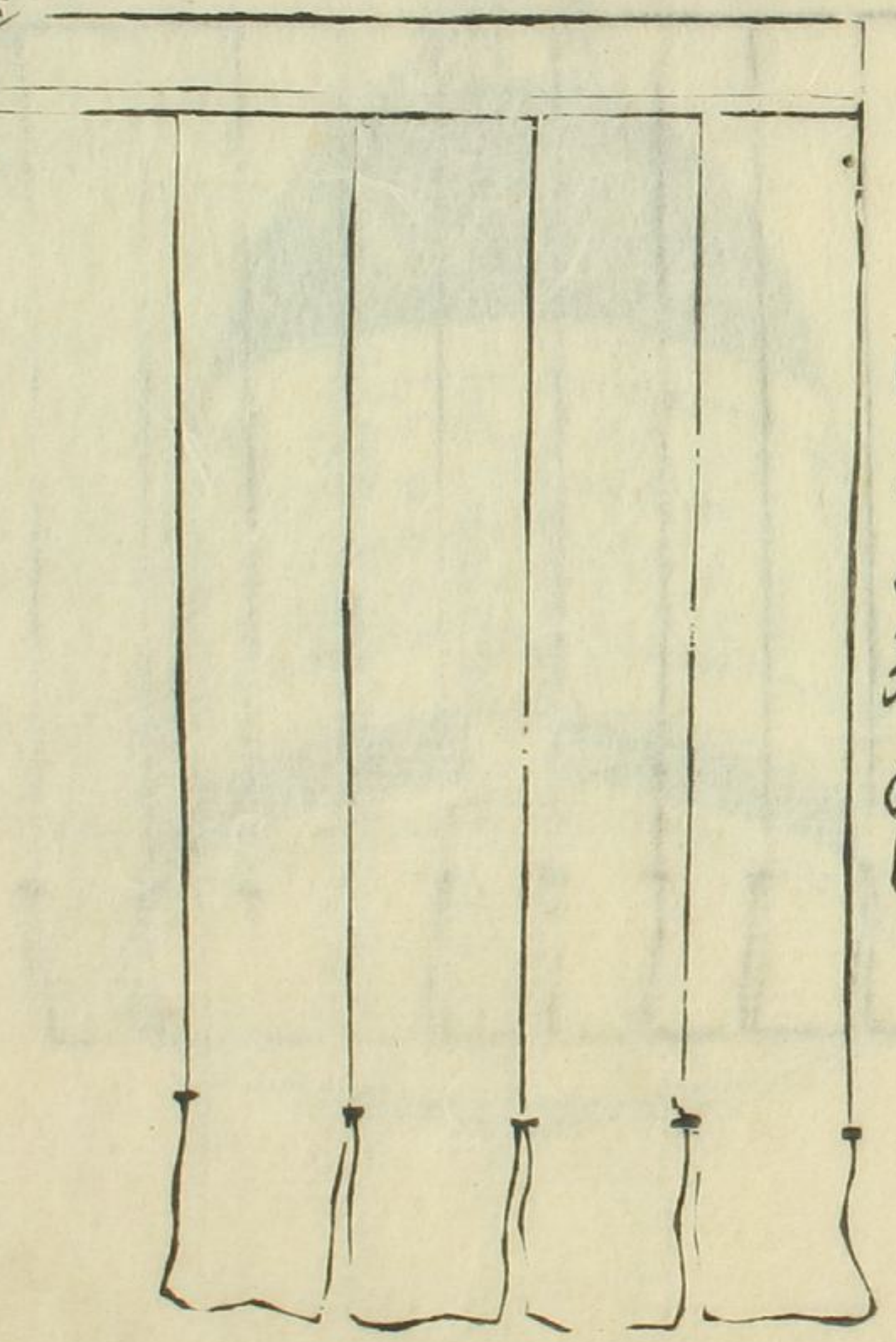
○九 四脚連幕すは立地法三ヶ条のち
 一 緒の浅又は深又はのちのちさつは八寸さつは
 と六寸縫いし一息はさつは六寸さつは
 皮のちさつは五分なり皮の皮と付合しうす
 みつあり

二 乳と付りしハツあのと一とあつて付りま
 さみす二ツ一折してはさつ付り七分ありは縫い
 るち一丈八尺ありのちのちさつは深は陽
 のちさつは六寸さつは六寸さつは

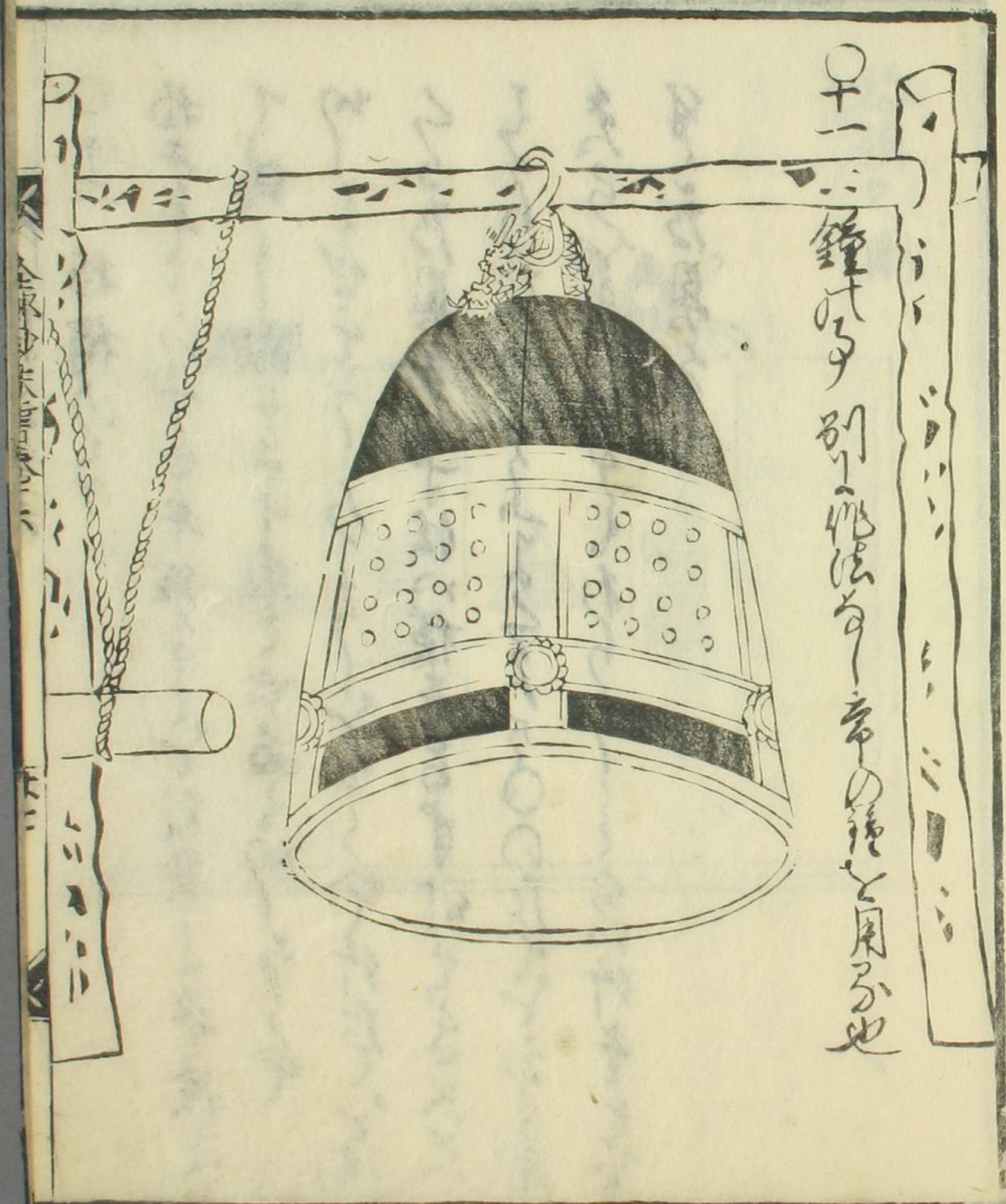
三 菊氏よしぬんい本幕のちりしは幕は
 折しとありはさつは十四寸さつは六寸さつは

右の種のちさつはさつはさつはさつはさつはさつは
 つみつあり

のちん幕れ圖

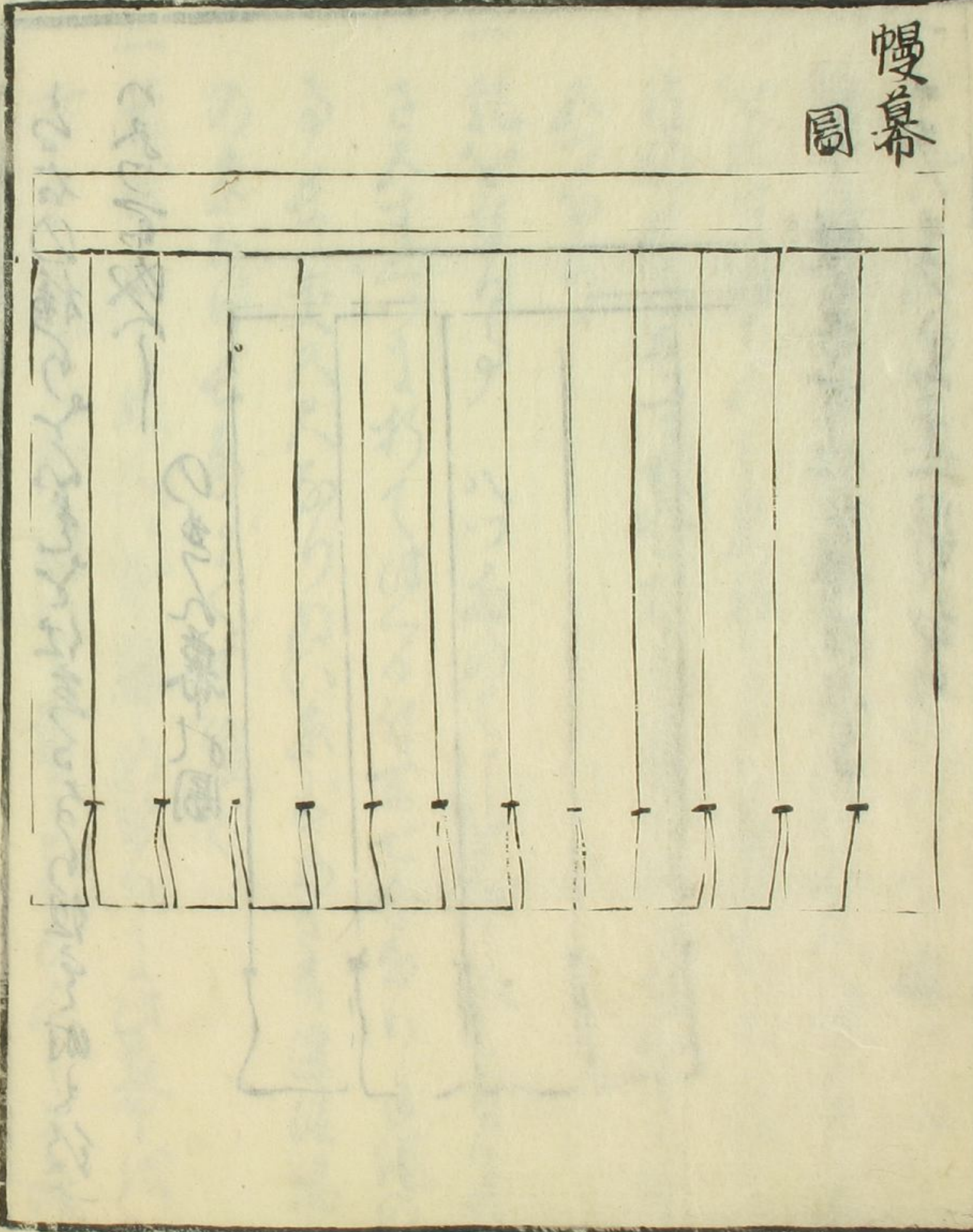


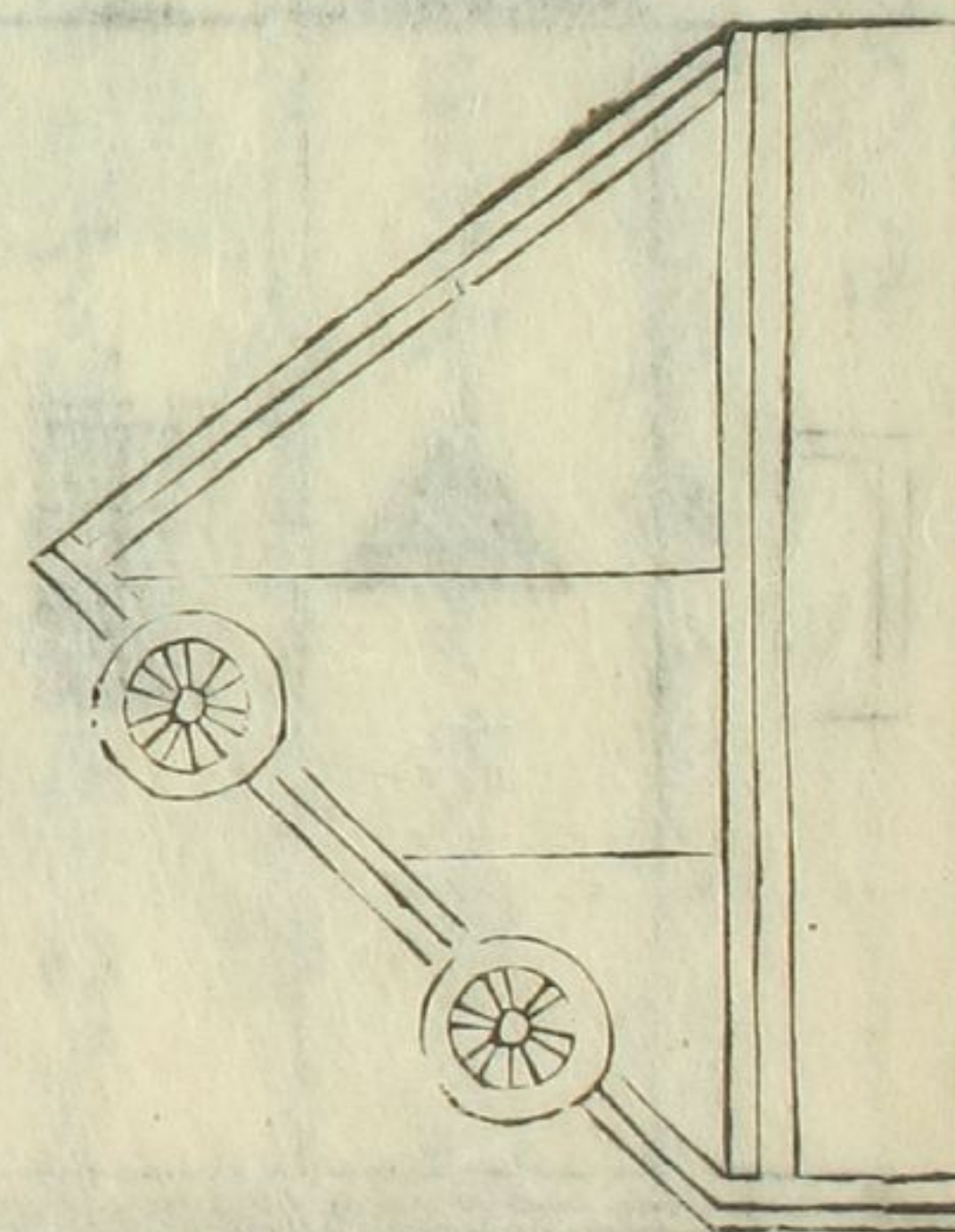
○十 幔幕すは立地法
 一 ちのちさつは十二尺あり



十一
鐘は多別地法より帝の鐘と用ふ也

幔幕
圖

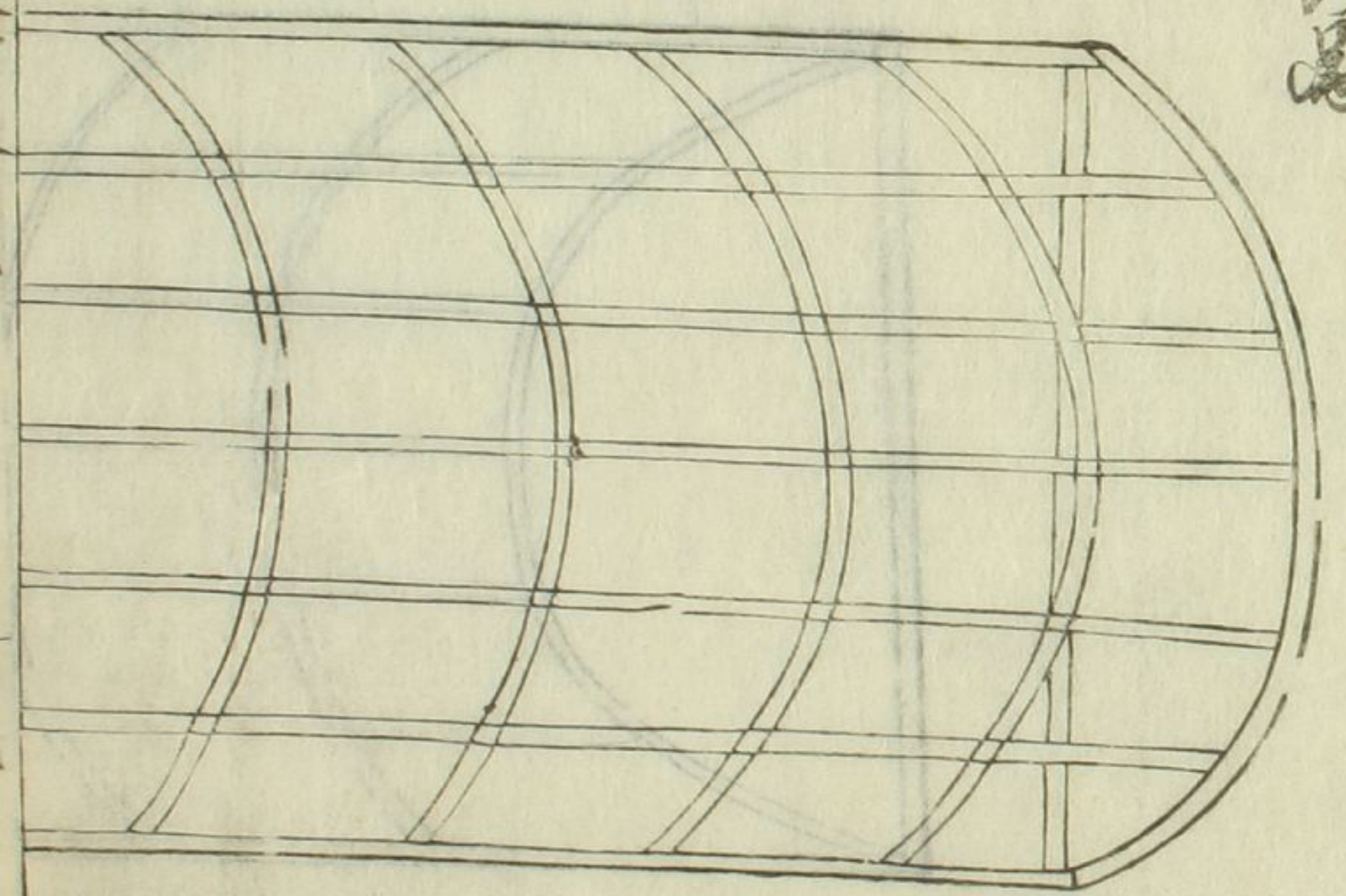




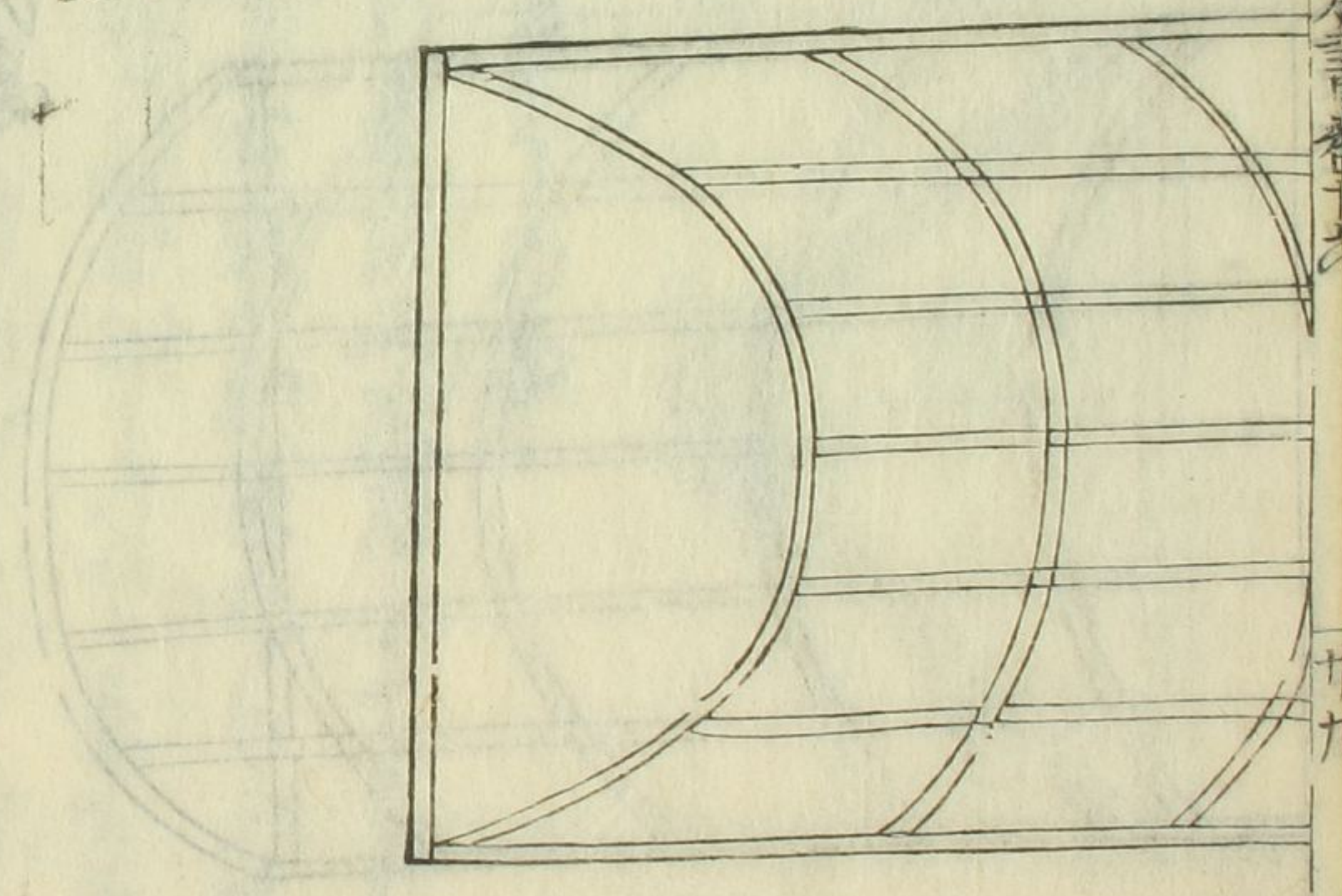
○十三 ぐくのぎょうの事

是のちぐらの番屋又改修しててもおんドラの場
よて物置とら士或の外張のりの場のはるの
そのらとぬ内のはかひのらとぬらぬら行してぬ
繪るはとらよ一様紙とららてとらぬらぬら
とらぬら

かくりぎの事



儀玄全集宋書卷之十六終



儀玄全集宋書卷之十六終

十九

